



# 2025年3月期第2四半期決算説明資料



2024年10月30日  
メタウォーター株式会社



## 目次

- I 2025年3月期第2四半期決算ハイライト
- II 2025年3月期第2四半期決算概要  
(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)
- III 「中期経営計画2027」の補足
- IV 参考資料

## I 2025年3月期第2四半期決算ハイライト

## II 2025年3月期第2四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

## III 「中期経営計画2027」の補足

## IV 参考資料

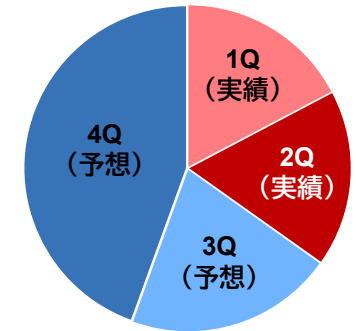
# '25/3期1-2Q 決算概況(連結)

## ■受注高

環境エンジニアリング事業、システムソリューション事業、運営事業、海外事業共に前期実績を上回った。

(参考)受注残高：'24/3期2Q末 2,636億円 ⇒ '25/3期2Q末 3,244億円(+608億円)

'25/3期 四半期別売上構成



## ■売上高・利益

当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上・利益が4Qに著しく偏る傾向があり、例年1-2Qの業績は低い水準となる傾向がある。

当1-2Qは、環境エンジニアリング事業および海外事業が順調に推移し**売上高・営業利益は前期を上回った**。経常利益・中間純利益は為替差損(3.1億円)などの計上により前期を下回った。

通期業績予想は変更なし。

(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 中間純利益	第2四半期末 1株当たり配当金(円)
'25/3期 1-2Q実績	1,085 前期比：+206 +23.4%	592 前期比：+62 +11.7%	-21 前期比：+7	-25 前期比：▲3	-25 前期比：▲3	24
'24/3期 1-2Q実績	879	530	-28	-23	-22	22
'25/3期 予想* (*'24.4.24公表) *受注高を除く	2,000 前期比：▲119 ▲5.6%	1,700 前期比：+44 +2.7%	90 前期比：▲9 ▲9.1%	87 前期比：▲18 ▲17.1%	61 前期比：▲8 ▲11.3%	第2四半期末 24 期末 24

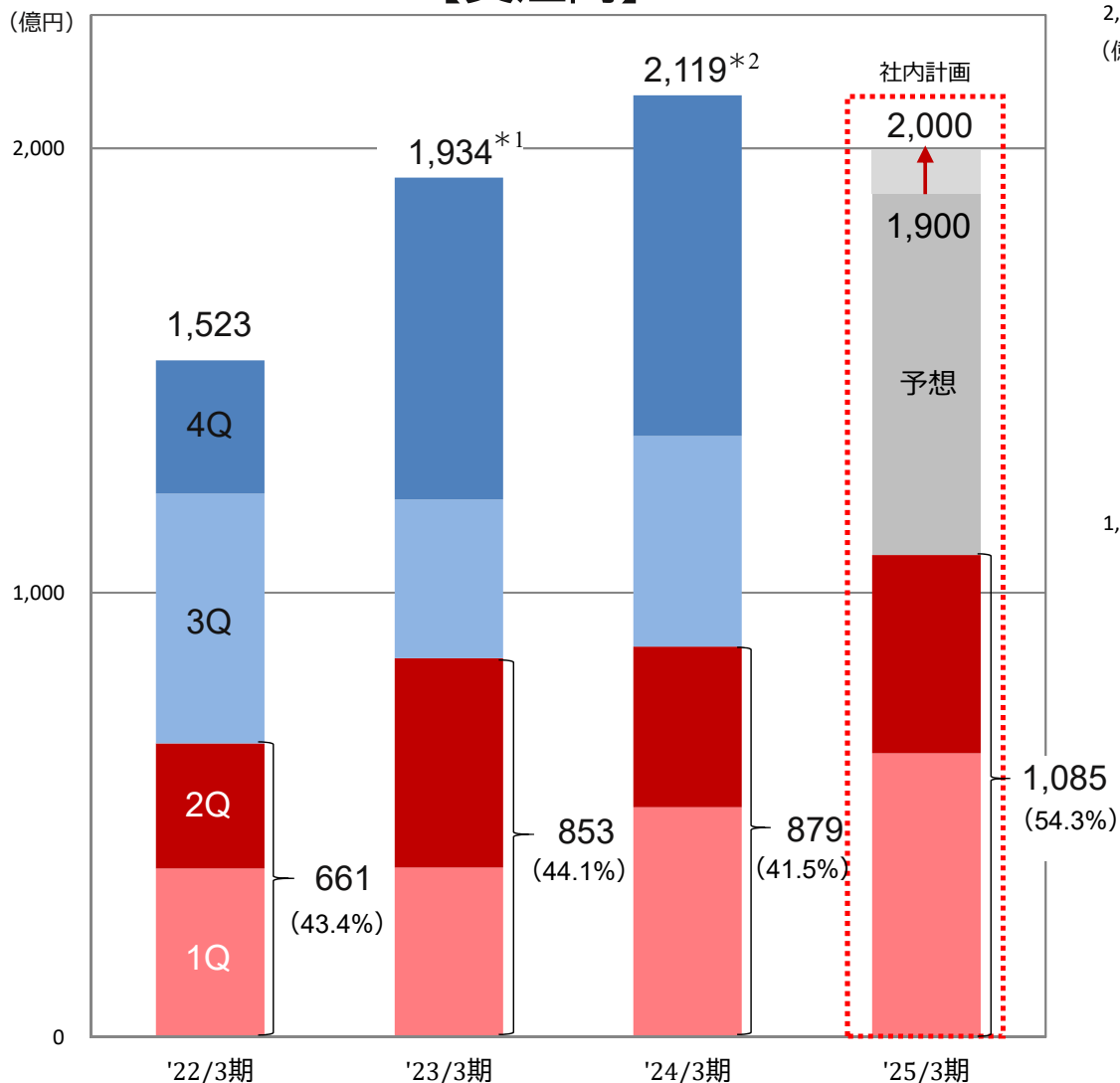
※10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

# '25/3期1-2Q 受注高・売上高推移（連結）

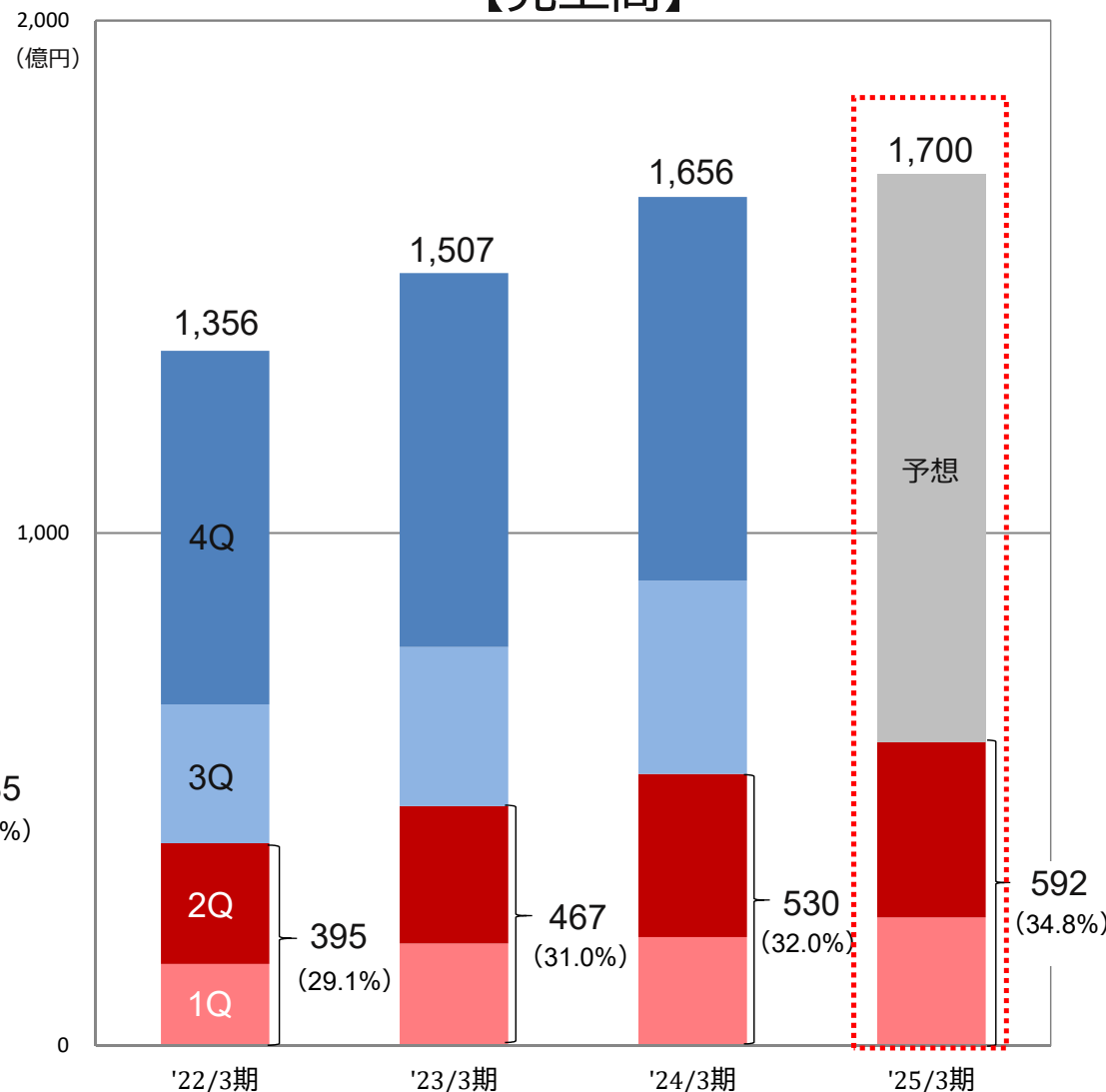
例年1-2Qの受注高は年間の4割程度で、売上高は年間の3割程度。

当1-2Qの受注高は例年を上回る水準で推移し、社内計画を見直し。売上高は例年通りの水準で推移。

### 【受注高】



### 【売上高】



\*1 23/3期 PPP大型案件「大阪市汚泥処理施設整備運営事業」を受注

\*2 24/3期 EPC大型案件「衣浦西部流域下水道事業 汚泥焼却施設機械設備工事（週休2日・環境整備）」ほかを受注

# '25/3期1-2Q セグメント別概況（連結）

（億円）

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増 減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増 減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増 減
環境エンジニアリング事業	219	322	+103	154	161	+7	-15	-10	+5
システムソリューション事業	299	326	+27	141	145	+4	-21	-26	▲5
運 営 事 業	176	224	+49	110	124	+14	10	8	▲2
海 外 事 業	185	212	+27	126	162	+36	-2	7	+9
合 計	879	1,085	+207	530	592	+62	-28	-21	+7

# 環境エンジニアリング事業・システムソリューション事業

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減
環境エンジニアリング事業	219	322	+103	154	161	+7	-15	-10	+5

## 【受注高・受注残高】

水環境事業および資源環境事業共に順調に推移。受注残高は1,136億円。

## 【売上高・営業利益】

水環境事業においては、売上高は前期を下回ったが、補修工事を含むサービス分野の業績が順調に推移し、営業利益は前期を上回った。資源環境事業においては、大型の建設工事案件が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

主な受注概要:「市原市リサイクル施設整備・運営事業」(プロジェクト総額:19,300百万円)のうち粗大ごみ処理施設およびストックヤードの建設、運営

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減
システムソリューション事業	299	326	+27	141	145	+4	-21	-26	▲5

## 【受注高・受注残高】

システムエンジニアリング事業およびカスタマーエンジニアリング事業共に順調に推移。受注残高は806億円。

## 【売上高・営業利益】

システムエンジニアリング事業においては、工事進行基準の売上高が前期をやや下回り、売上高・営業利益共に前期をやや下回った。カスタマーエンジニアリング事業においては、補修工事や更新工事などが順調に推移し、売上高・営業利益共に前期と同水準となった。

主な受注概要:「024大改第652号 大久保浄水場薬品注入電気計装設備更新工事」での薬品注入設備の電気設備、計装設備、  
計算機設備工事一式 (契約金額:1,854百万円)

# 運営事業・海外事業

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減
運営事業	176	224	+49	110	124	+14	10	8	▲2

## 【受注高・受注残高】

サービス子会社における複数年契約の一括受託により前期を上回った。受注残高は907億円。

## 【売上高・営業利益】

売上高は順調に推移し前期を上回ったが、営業利益は一部の低粗利案件の影響により前期を下回った。

主な受注概要: 周南市徳山中央浄化センター再構築事業(プロジェクト総額: 19,136百万円)のうち機電メンテナンス、維持管理・運営

	受注高 *3			売上高 *1 *3			営業利益 *1 *2 *3		
	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減	'24/3期 1-2Q	'25/3期 1-2Q	増減
海外事業	185	212	+27	126	162	+36	-2	7	+9

## 【受注高・受注残高】

北米子会社および欧州子会社が順調に推移し前期を上回った。受注残高は395億円。

## 【売上高・営業利益】

北米子会社および欧州子会社の業績が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

\*1 うち為替影響 売上高15億円、営業利益1億円

\*2 海外子会社買収時の「のれん」ほか無形固定資産などの償却 3.8億円処理後

\*3 為替レート

'24.3期1-2Q  
1\$=135.0円

'25.3期1-2Q  
1\$=152.4円

主な受注概要: ジョージア州下水処理場向けクロスメディアフィルター、鉾山向け廃水処理装置





# 目次

I 2025年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2025年3月期第2四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

III 「中期経営計画2027」の補足

IV 参考資料

# '25/3期1-2Q 連結損益計算書(対前年増減)

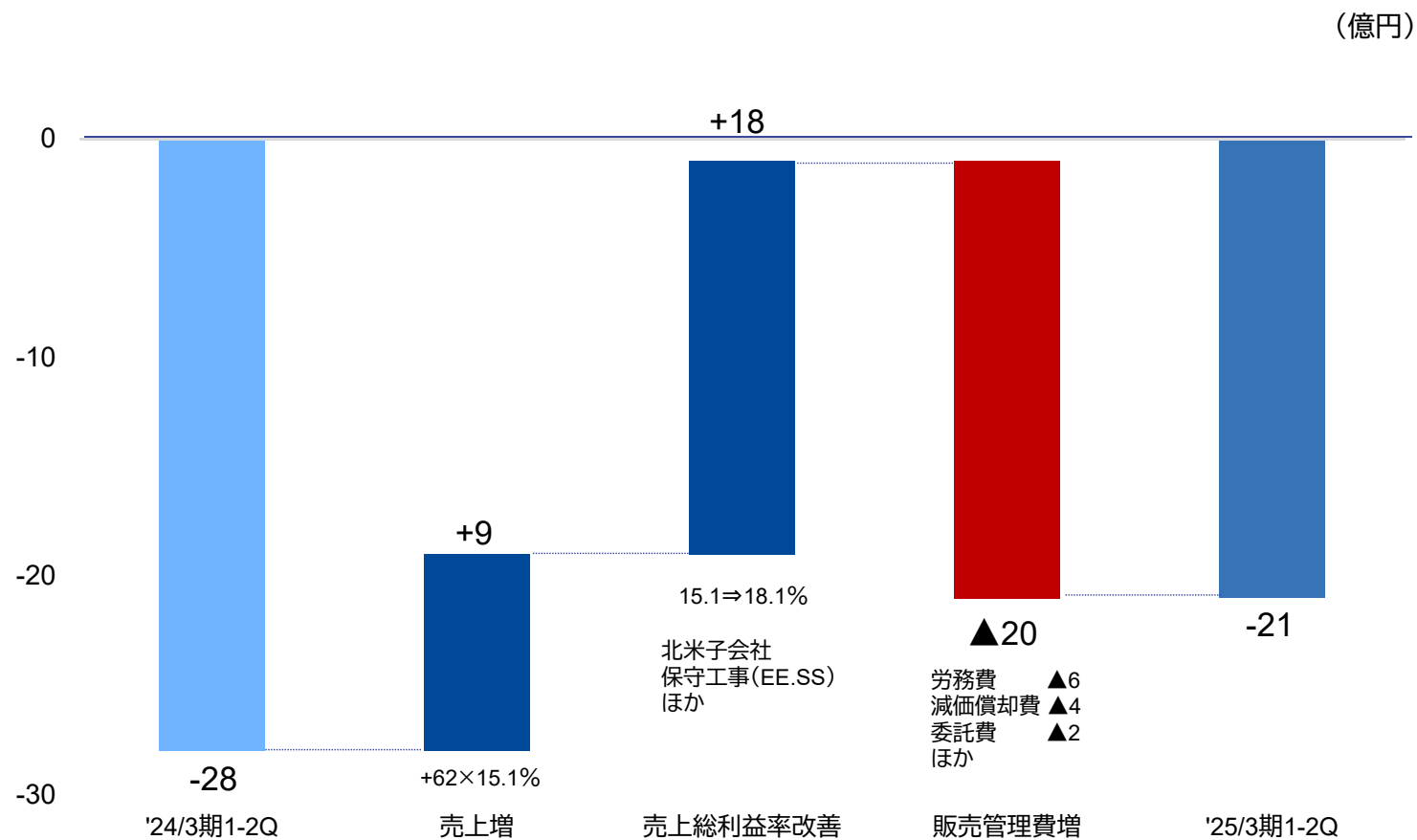
(億円)

	'24/3期 1-2Q実績	'25/3期 1-2Q実績	増 減
売 上 高	530	592	+62
売 上 総 利 益	80	107	+27
営 業 利 益	-28	-21	+7
( 営 業 利 益 率 )	-5.2%	-3.5%	+1.7%
営 業 外 損 益	+5	-5	▲10
経 常 利 益	-23	-25	▲3
法 人 税 等	-3	-3	+1
非支配株主に帰属する 中 間 純 利 益	3	2	▲0
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	-22	-25	▲3

売上高 増減	
主に環境エンジニアリング事業および 海外事業が順調に推移	+62
営業利益 増減	
売上増影響	+9
売上総利益率改善(15.1%→18.1%)	+18
販売管理費増	▲20
営業外損益 増減	
利息および配当(0.3 ⇒ 0.7)	+0
為替差損益(5.5 ⇒ -3.1)	▲9
外貨建資産の評価損が発生	

# '25/3期1-2Q 対前年 営業利益増減

当1-2Qは、期初公表の労務費、DX投資(減価償却費ほか)が予定通り推移。業務委託費など一部経費の前倒しがあるものの、北米子会社、保守工事案件などの貢献により増益。



# '25/3期2Q 連結貸借対照表

資産：'25/3期2Q末は、売上債権・契約資産の回収により現預金が増加。

負債：仕入代金の支払いにより買掛債務は減少。

(億円)

	'24/3期 期末実績	'25/3期 2Q末実績	増 減
現金・預金	149	291	+142
売上債権・契約資産	1,031	603	▲427
仕掛品・貯蔵品	137	203	+66
その他	44	50	+5
<b>流動資産計</b>	<b>1,361</b>	<b>1,147</b>	<b>▲213</b>
有形固定資産	58	69	+11
無形固定資産	161	167	+6
繰延税金資産	23	24	+1
その他 <sup>*3</sup>	87	86	▲1
<b>固定資産計</b>	<b>328</b>	<b>345</b>	<b>+17</b>
<b>総資産計</b>	<b>1,688</b>	<b>1,492</b>	<b>▲196</b>

	'24/3期 期末実績	'25/3期 2Q末実績	増 減
買掛債務	323	140	▲183
短期借入金 <sup>*1 (7)</sup>	43	<sup>*1 (8)</sup> 8	▲35
契約負債	106	180	+74
その他	173	115	▲59
<b>流動負債計</b>	<b>645</b>	<b>442</b>	<b>▲203</b>
社債・長期借入金 <sup>*2 (127)</sup>	227	<sup>*2 (123)</sup> 223	▲4
その他	59	63	+3
<b>固定負債計</b>	<b>287</b>	<b>286</b>	<b>▲1</b>
<b>負債計</b>	<b>932</b>	<b>728</b>	<b>▲203</b>
<b>純資産計</b>	<b>757</b>	<b>764</b>	<b>+7</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,688</b>	<b>1,492</b>	<b>▲196</b>

\*1 \*2 : カッコ内の数値はPFIなどプロジェクトファイナンス・ローンの金額

\*3 : 繰延資産含む

# '25/3期1-2Q 連結キャッシュ・フローの状況

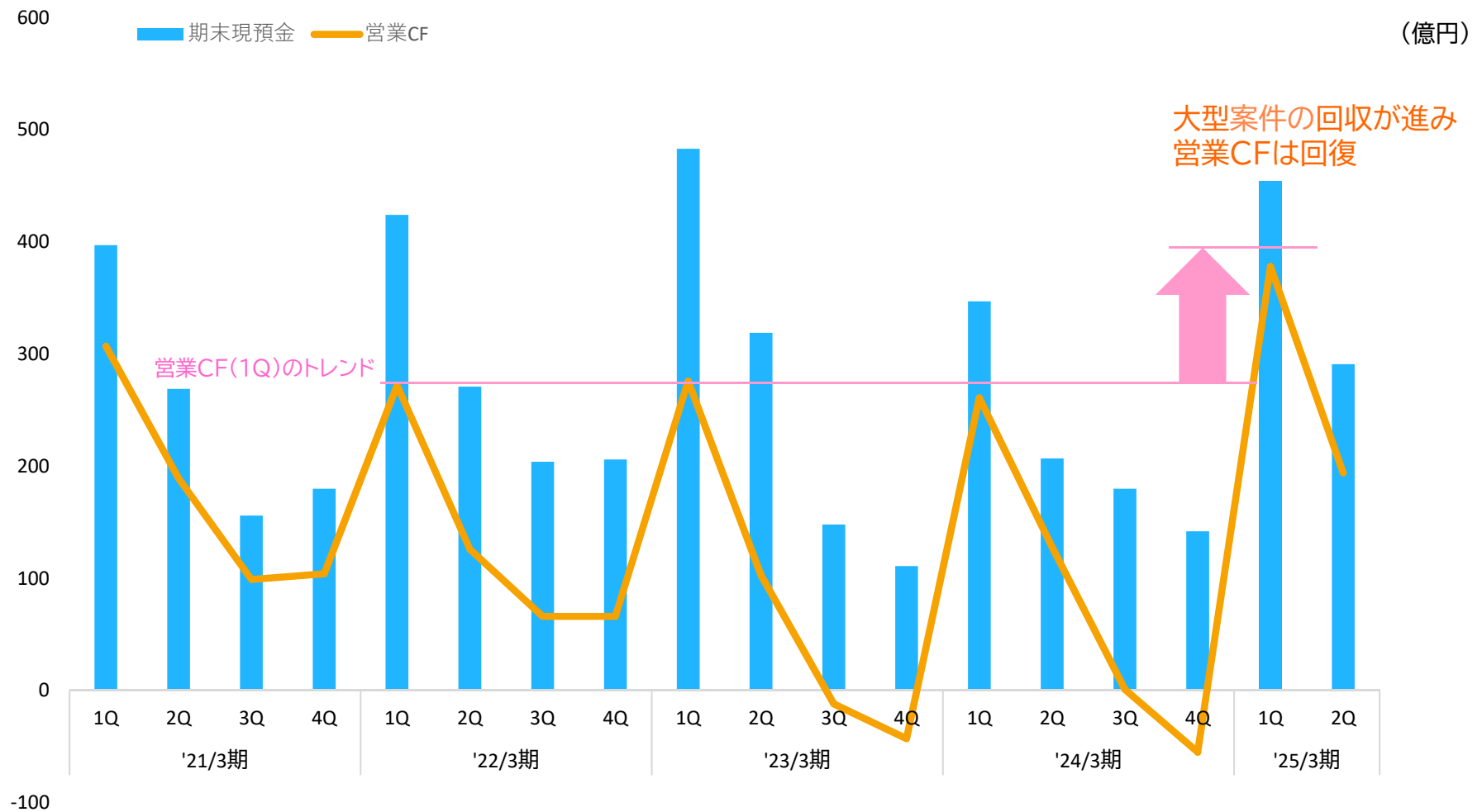
大型案件の入金により営業キャッシュ・フローは大幅増加。

(億円)

	'24/3期 1-2Q実績	'25/3期 1-2Q実績	増 減	
現金・現金同等物の前期残高	111	142	+31	
営業キャッシュ・フロー	128	196	+68	売上債権回収 +94
投資キャッシュ・フロー	-30	-17	+13	更新投資の減少
フリー・キャッシュ・フロー	98	179	+82	
財務キャッシュ・フロー	-5	-41	▲36	借入金の返済
現金・現金同等物に係る 換算差額等	3	5	+2	
現金・現金同等物の期末残高	207	285	+79	

# 連結キャッシュ・フローの状況

- ・案件の大型化や工期の長納期化により資金回収は従来より後ろ倒しになる傾向。
- ・建設業法の改正により協力会社への支払いが早期化し、営業キャッシュフローが一時的に悪化。
- ・現預金、営業キャッシュ・フローの悪化は、当期の1Qに解消。2Qも順調に推移。



# '25/3期 セグメント別 (連結)業績予想

受注高：前年度の大型案件の影響でEE事業、SS事業は前期を下回る見通し。

売上高・営業利益：(国内) 期初公表の通り、人件費、減価償却費負担から増収減益。  
(海外) 海外子会社が好調に推移し、増益を見込む。

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期 実績	'25/3期 予想	増減	'24/3期 実績	'25/3期 予想	増減	'24/3期 実績 (営業利益率)	'25/3期 予想 (営業利益率)	増減
環境エンジニアリング事業 (EE事業)	740	570	▲170	529	540	+11	30 (5.7%)	25 (4.6%)	▲5
システムソリューション事業 (SS事業)	604	560	▲44	526	545	+19	37 (7.0%)	30 (5.5%)	▲7
運 営 事 業	406	550	+144	289	305	+16	21 (7.3%)	18 (5.9%)	▲3
海 外 事 業 <sup>*2</sup>	368	320	▲48	312	310	▲2	11 (3.5%)	17 (5.5%)	+6
合 計	2,119	2,000 <sup>*1</sup>	▲119	1,656	1,700	+44	99 (6.0%)	90 (5.3%)	▲9

\*1 2024.4.24公表数値から2,000億円へ見直し \*2 為替レート '24.3期 1\$=140.1円、'25/3期予想 1\$=140.0円



## 目次

I 2025年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2025年3月期第2四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

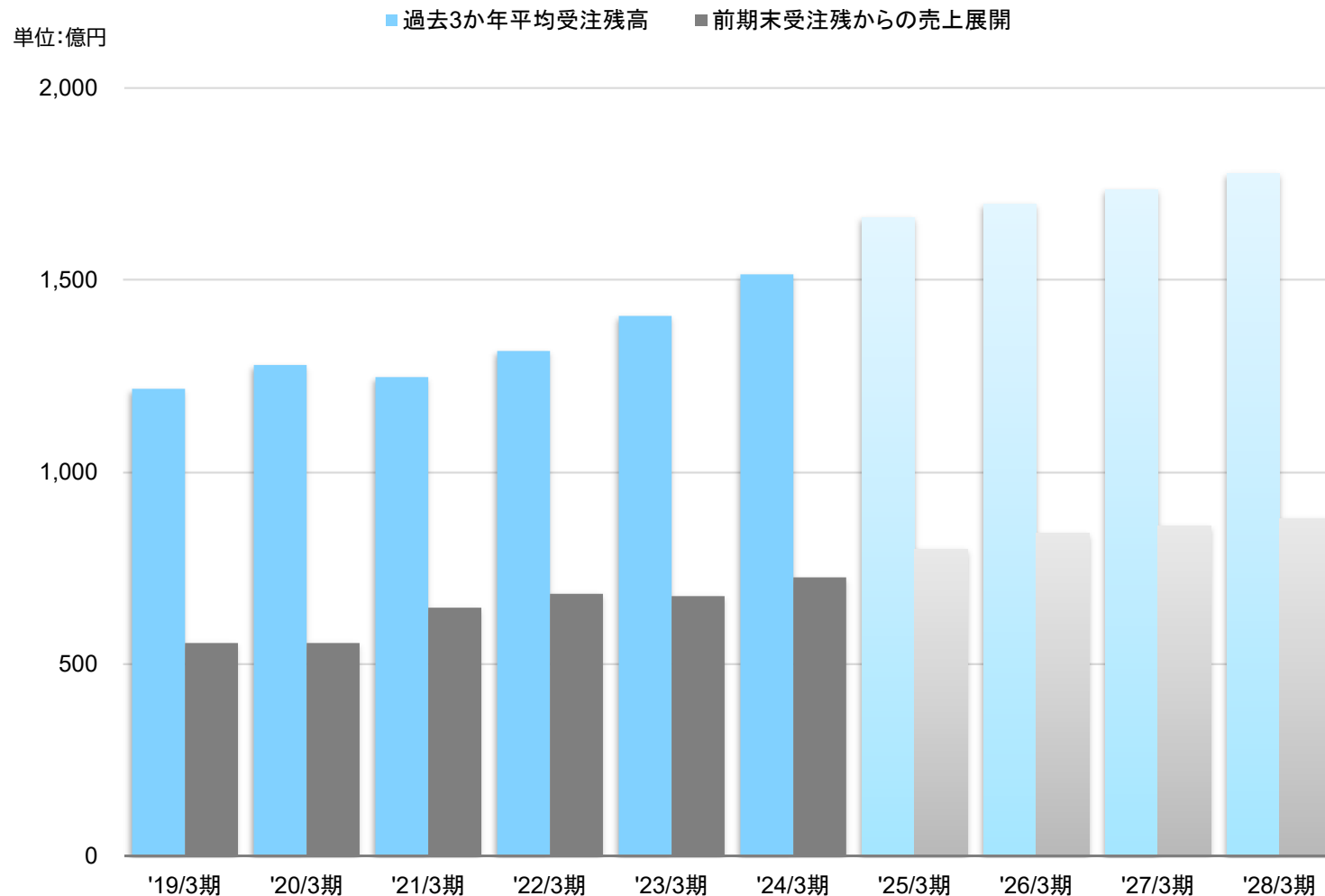
III 「中期経営計画2027」の補足

IV 参考資料



# (単体)受注残高と売上の推移

好調な受注を背景に、受注残高は急速に増加。  
案件の大型化・長期化の影響がある中、前期末受注残高からの売上は着実に伸長。

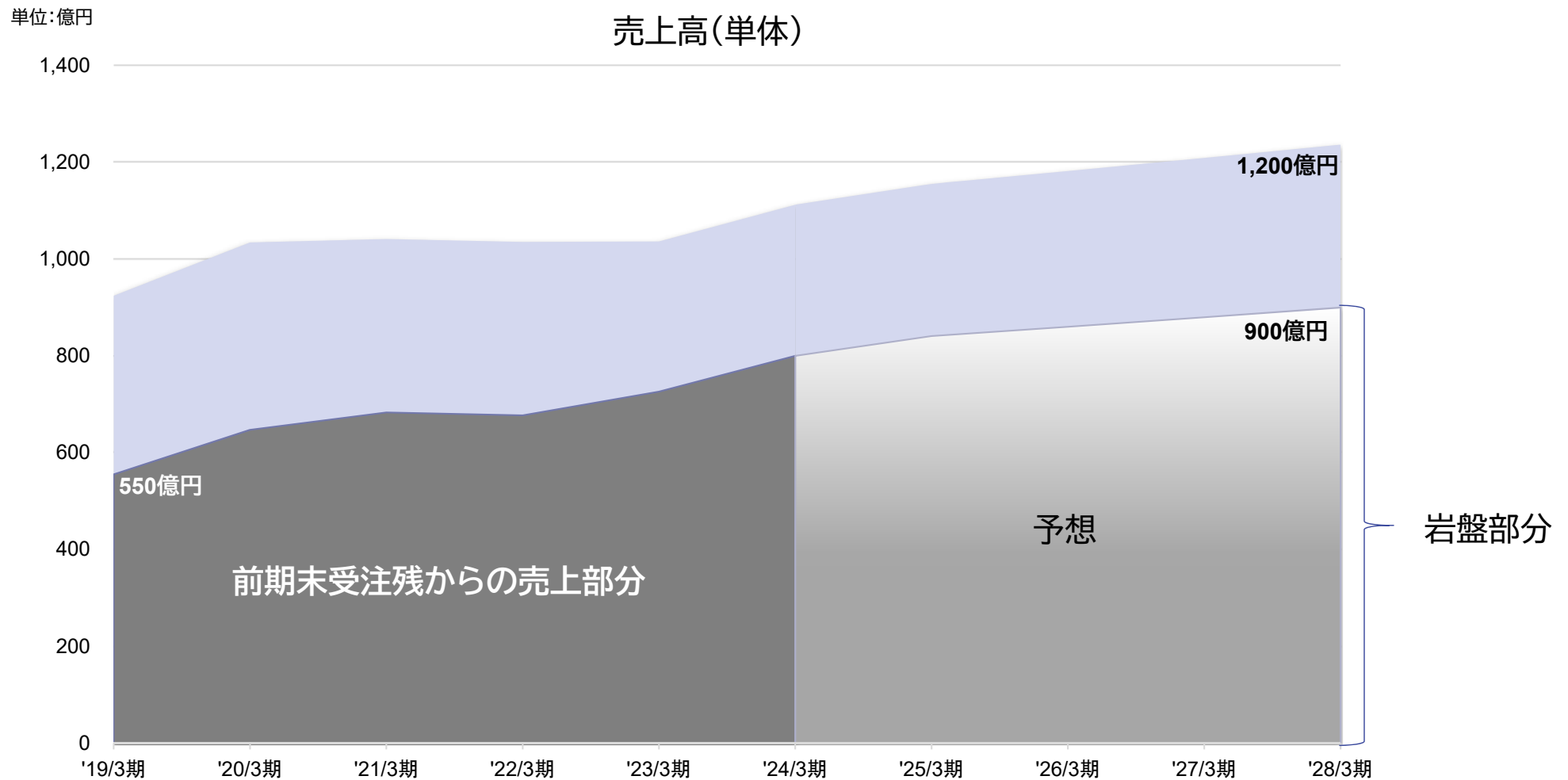


※受注残高は、'24/3期までは過去3カ年平均、'25/3期以降はイメージ。

※'25/3期以降の前期末受注残からの売上展開予想は、直近3カ年の売上展開平均率を使用。

# (単体)受注残高からの売上展開(岩盤部分)

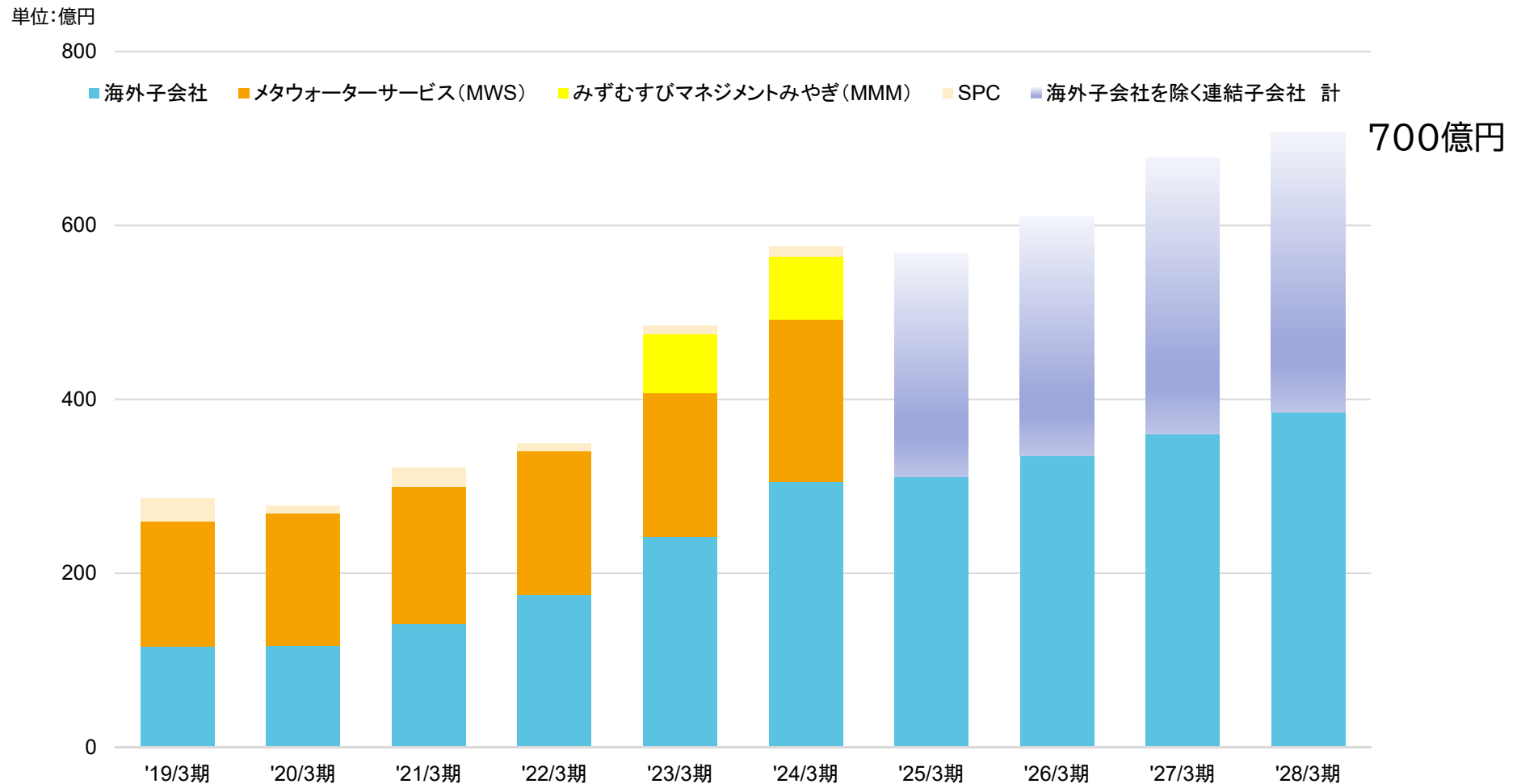
前期末受注残高(単体)からの売上高は、'28/3期には900億円への拡大を見込む。  
当期受注当期売上を加えたトータル売上高も1,200億円の水準に。



※ '25/3期以降の前期末受注残からの売上展開予想は、直近3力年の売上展開平均率を使用。

# 連結子会社の売上実績と予測

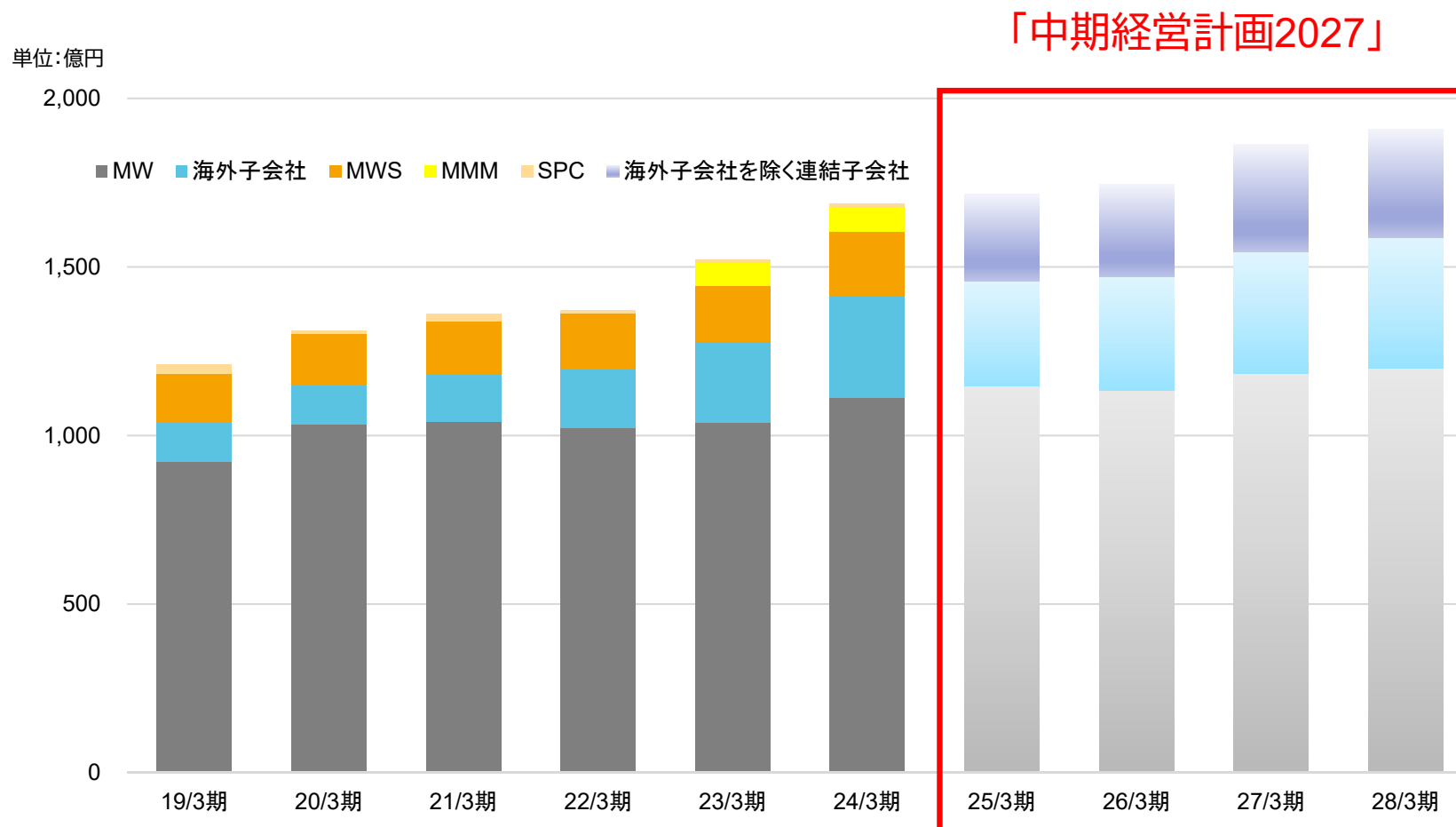
連結子会社の売上高は確実に伸長し、700億円水準への拡大を見込む。



※ '19/3期から'24/3期については子会社実績(連結消去除く)。  
'25/3期は予想数値、'26/3期以降は当社計画値にて試算したイメージ。

# 「中計経営計画2027」 売上高達成に向けて

メタウォーター単体の前期受注残からの売上を岩盤とし、連結子会社の伸長により「中期経営計画2027」の最終年度に売上高2,000億円の達成を見込む。



※ '19/3期から'24/3期については実績値。  
'25/3期公表値、'26/3期以降は当社試算値(連結消去含む)。



## 目次

I 2025年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2025年3月期第2四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

III 「中期経営計画2027」の補足

IV 参考資料

## 事業活動

- \*みずむすびマネジメントみやぎが「第1回PPP/PFI事業優良事例表彰」で大臣賞を受賞（7月）
- \*「下水道展'24東京」に出展（7月）

## その他

- \*「メタウォーター打ち水大作戦2024」を開催（8月）
- \* [統合報告書「メタウォーターレポート2024」を発行（8月）](#)
- \*経済広報センター主催「教員の民間企業研修」を実施（8月）

## □環境エンジニアリング事業(略語:EE事業) 水環境事業、資源環境事業

国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設向け、**機械設備の設計・建設**および**保守・維持管理**を主たる業務としています。

## □システムソリューション事業(略語:SS事業) システムエンジニアリング事業、カスタマーエンジニアリング事業

国内浄水場・下水処理場向け、**電気設備の設計・製造**および**保守・維持管理**を主たる業務としています。

## □運営事業

国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル**施設の運営**を主たる業務としています。

## □海外事業

海外浄水場・下水処理場向け、**施設・設備の設計・建設**および**保守・維持管理**ならびに**民需事業**を主たる業務としています。

略語	EPC	Engineering, Procurement and Construction:設計・調達・建設
	O&M	Operation and Maintenance:運転・維持管理
	PPP	Public-Private Partnership(公民連携):公共サービスの提供に民間が参画する手法
	PFI	Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
	DBO	Design, Build and Operate:公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
	コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の許可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

## ディスクロージャーポリシー

### 1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様への期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

### 2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

### 3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

### 4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

### 5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等など差し控えます。

### 6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

### 7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



### 【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 経営企画室 コーポレートコミュニケーション部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp